

もしもの時は？

- 参加者や指導者の感染が疑われる場合
新型コロナウイルスの感染が疑われる参加者には、主催者にただちに相談した上で、速やかに「かかりつけ医」または「受診相談センター」へ連絡し、その指示に従うよう促しましょう。
- 指導者の感染が疑われる場合
指導者本人またはスタッフ(アルバイト・ボランティア)に新型コロナウイルスの症状がある、もしくは症状がある人に接触した場合は、速やかに「かかりつけ医」または「受診相談センター」へ連絡し、その指示に従うよう促しましょう。

感染が心配される場合

「受診相談センター」(毎日24時間対応・土日祝日含む) 電話:0120-88-0006

コロナに対して不安に思う場合

「一般相談センター」(受付時間8:30~18:00・土日祝日含む) 電話:0120-56-7383

新型コロナウイルス接触確認アプリの紹介(登録推奨)

国の「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」に登録すると、陽性者と接触した可能性が分かり、保健所のサポートをいち早く受けることができるため、登録をお勧めします。詳しくはこちら

厚生労働省HP:「厚生労働省 COCOA」とお調べください。
(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html)

厚生労働省
ウェブサイト



活動時に使える感染防止関連グッズ

- アルコール消毒液 携帯容器に入れて持ち運びましょう
- フェイスシールド ヘルメットにつけられるタイプもあります
- マスク 大人用と子供用を用意しましょう
- 非接触型体温計 36.5
- 手袋 36.5

Q & A

- Q. 参考になるガイドラインが知りたいのですが？
- A. 山形県のホームページ『新型コロナウイルス感染症に関するポータルサイト』や(公社)国土緑化推進機構『森林内での活動における新型コロナウイルスが発生した時の対応及び活動継続に関する基本的なガイドライン』をご覧ください。

本パンフレットは、県内で森づくり活動に取り組んでいる方々からのご意見等を参考にしながら、山形県「新型コロナウイルス予防の手引き」、(公社)国土緑化推進機構発行『森林内での活動における新型コロナウイルスが発生した時の対応及び活動継続に関する基本的なガイドライン』、(公社)日本環境教育フォーラム、(NPO法人)自然体験活動推進協議会、(一社)日本アウトドアネットワーク発行『自然学校等における新型コロナウイルス対応ガイドライン』を参考に作成しました。

2020年11月: 山形県村山総合支庁 産業経済部 森林整備課 森づくり推進室
〒990-2492 山形県山形市鉄砲町二丁目19-68 電話:023-621-8248

「新しい生活様式」に沿った森づくり活動のポイント

①はじめに

- 山形県のホームページより『新型コロナウイルス感染症に関するポータルサイト』の新しい情報を確認しましょう。
- 山形県における新型コロナ対応の目安の警戒レベルを踏まえ、プログラム計画・実施を心掛けましょう。
- 警戒レベルは、最新の情報を把握しておきましょう。

③準備

- 感染防止のための関連グッズを用意しましょう。(非接触型体温計、消毒液、フェイスシールドなど)



- 森林内など手洗いの機会が減少する活動場所では、手洗い用の水やアルコール消毒液を準備しましょう。もしくは参加者各自での準備をお願いします。

- 使用する備品は、各自用意し、共有することは控えましょう。やむを得ず共有する場合は、使い捨てのものを使ったり、消毒などを考えましょう。

- 参加者への資料などを事前に配布し活動の感染防止対策について理解を促しましょう。



- 体調がすぐれない場合等には欠席しやすいよう、事前に徴収した参加費は返金するなど、キャンセル条件の緩和を検討しましょう。

- もし感染者が確認された場合の連絡を円滑にするために、参加者の氏名、住所、緊急連絡先を把握し、名簿を作成しましょう。(接触確認アプリの活用を推奨)



⑥実施後

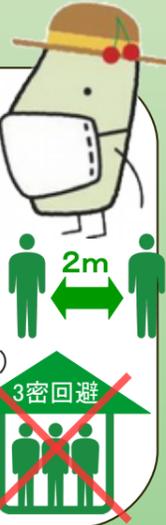
- 使用した備品は消毒しましょう。使い捨てのものは、一つの袋にまとめるなどして安全に破棄してください。



②計画

チェックして
みてください

- 活動時の参加人数が利用施設収容人数について、少人数グループを基本とする分散した活動を計画しましょう。
- 間隔をあけて活動が行えるように、活動スペースは広めに確保しましょう。(お互いの距離が2m以上とれるように)
- 活動中に起こりえる”3密”(密集、密閉、密接)を想定し、それを避ける工夫をしましょう。



④活動直前

- 山形県のホームページより『新型コロナウイルス感染症に関するポータルサイト』の最新情報から行動制限を確認し、参加者の受け入れの可否、開催の判断をしましょう。

⑤実施中

- 参加者の体温確認をしましょう。(体温測定や体調不良など)
- 参加者に活動時の感染防止対策への協力をお願いします。(参加者との身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い・消毒についてのガイダンスなど)
- 参加者はマスクを着用しましょう。なおかつ、十分な距離を確保して、フェイスシールドの着用や、インカム(ヘッドホンとマイクが一つになっている機器)などを使用しましょう。
- 感染防止関連グッズ(マスクやアルコール等)も携帯し、適宜使用しましょう。
- 野外では熱中症対策のため、2m以上の距離を確保し、適宜マスクをはずしましょう。その場合は、大きな声で話したり笑ったりしないように気を付けてください。





「新しい生活様式」に沿った 森づくり活動のポイント

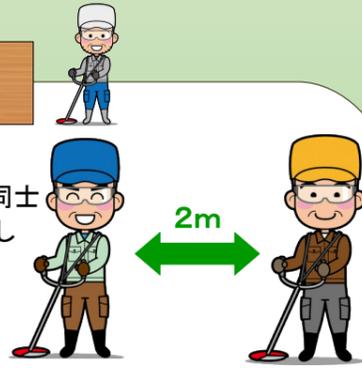
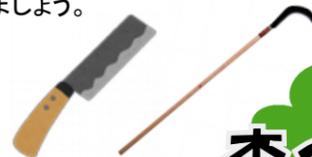
植栽や下草刈りなどの整備活動

□激しい呼吸を伴う作業は行わないようにしましょう。基本的に野外での活動では2m以上確保したうえで、マスクを外しましょう。ただし、近接して作業をする場合は、マスクを着用しましょう。
熱中症予防のために参加者の体調の変化に気をつけて、こまめに水分補給を行うように声掛けをまめに行ったり、休憩を増やすなどの工夫を心掛けましょう。

□作業する際は、参加者同士2m以上の間隔を確保しましょう。



□道具、消耗品、装備などは個人ごとに配布しましょう。または各人で準備をしてもらい、他者との貸し借りはしないようにしましょう。



自然観察会

□少人数のグループとなるよう、指導員を配置しましょう。



□参加者同士の身体接触や近接を伴うプログラムは実施することを避けましょう。

□大人数への解説や説明が必要な場合は、インカム（ヘッドホンとマイクが一つになっている機器）や拡声器を使用し、参加者同士が大声で会話したり密集したりすることがないように配慮しましょう。

熊がいるぞー!! /



森づくり活動ごとの 気をつけるポイント

ブース出展

□指導者またはスタッフが、ブースに立ち寄った参加者と接する場合は、その間に透明なパーテーションやシートを設けましょう。



□パンフレットやチラシなどは、「ご自由にお持ち帰りください」といった内容のほかに「一度触れたものは戻さないようにお願いします」といった表示をして、できるだけ不特定多数の人が触ることを避けましょう。もしくは、配布物にナンバリングして、希望者に渡すような方式にするとよいでしょう。



□ブース内で、クラフトや作業体験などを行う場合は、参加者同士の距離を2m以上確保しましょう。また、待ち時間がある際は、待機場所でも間隔を空け、それを参加者にわかりやすく図示や案内するようにしましょう。



室内での木工・クラフト

□参加人数：会場の収容定員の半分にしましょう。



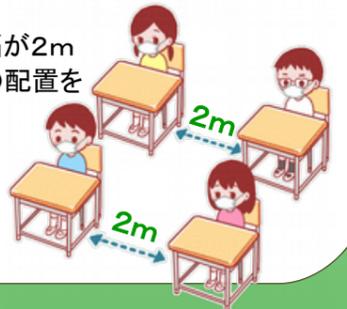
□机、椅子、扉、手すりなど参加者が手をふれるところは消毒しましょう。



□会場の窓や扉は開けて換気をしましょう。夏場は常に換気、冬場は定期的に換気をしましょう。



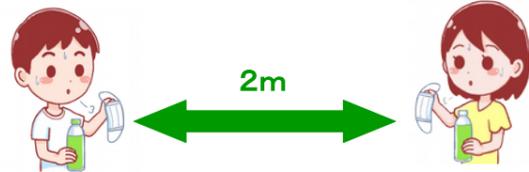
□参加者同士の間隔が2m以上空くように席の配置を工夫しましょう。



□使用する道具は各人に配布し、作業終了まで同じ参加者に使用してもらい、他者との貸し借りはしないようにしましょう。また使用後は、適宜消毒しましょう。

熱中症対策について

□野外や森林内では2m以上の距離を確保したうえで、適宜マスクをはずして活動しましょう。



□こまめな水分補給を促しましょう。また、大量に汗をかいた場合は、塩分も摂取しましょう。



□休憩は日陰など、涼しい場所でとり、無理のない活動を心掛けましょう。



食事・休息について

□お互いが2m以上離れられるようなスペースを確保し、向かい合っでの飲食や会話は避けましょう。
□大人数での休憩や食事は、時間をずらすことや換気などの対策をしましょう。
□手作りの食事をする際は、食品を扱う人の健康管理と衛生管理（マスクや手袋着用など）や調理器具の消毒を徹底しましょう。また、配膳する時は、個別に盛り付け、密接を避ける工夫をしましょう（例：割り箸や使い捨ての皿を使うなど）。
□施設などで食堂を使う際は、その施設の基準に合わせて行いましょう。



マイクロバスの利用

□バスでは窓を開けることやエアコンで外気を入れるなど、定期的な換気を促しましょう。
□バス内ではマスクを着用してもらい、大きな声での会話などは控えてもらいましょう。
□体調が悪い場合は、すぐに申し出てもらうよう事前にアナウンスしましょう。

大人数があつまる場合

□大人数があつまる際は、参加者同士2m以上の間隔を空けましょう。
□集合写真などは家族やグループごとで撮影し、密接を避けましょう。

